

フラッシュ暗算が そろばん教育を変える!?

テレビなどでもおなじみの「フラッシュ暗算」は、もともとそろばん学習のために開発されたものです。その開発者である宮本裕史先生に、フラッシュ暗算の利点と魅力について、また、先生の考えるそろばん教室の魅力を語っていただきました。

宮本暗算研究塾Max

開塾34年。珠算塾として初めて「暗算塾」の名称に変更。「フラッシュ暗算」を開発し、国内初のパソコンを導入した珠算塾となる。計算技能世界一決定戦での団体優勝をはじめ、全日本珠算選手権大会・国民珠算競技大会の読上算日本一など獲得タイトル多数。

フラッシュ暗算開発のきっかけ

私は珠算塾をはじめ今年でちょうど34年目になります。当時は電卓が普及しはじめた頃で、また翌年には日本初のパーソナルコンピュータが発売されました。当時書かれた10年後の日本を予測した本には、そろばんは10年後になくなると書かれていました。電卓の普及とコンピュータ時代の幕開け、誰もが想像できることでした。そんな

ときに私は「珠算指導」を職業として選択したわけです。

どのようにすれば、「そろばん」は生き残ることができるのか? そんなことを考える毎日でした。「そろばん」には、珠算式暗算という武器があります。珠算本来の暗算は、最低でも2ケタや3ケタの計算を分割せずに一括で計算できなければ意味がありません。しかし、それまでの「そろばん」は、計算機としての要素が強く、商工

会議所主催の珠算検定試験には「暗算種目」は行われておらず、(社)全国珠算教育連盟主催の試験では、3級から初めて暗算が行われるという現状でした。ですから、全く暗算の練習はしない、または3級から暗算の練習をはじめます。また、せっかく暗算の指導をしても筆算と同じように分割計算を指導してしまいます。このような教室がほとんどであったわけです。

どうか、指導者にも生徒にも分割

計算をさせない、2ケタの計算は2ケタ、3ケタの計算は3ケタで、本来の珠算式暗算で行わせる計算方法はないものか。そんな考えから生まれたのが「フラッシュ暗算」でした。

暗算の基礎教材としての役割

フラッシュ暗算とは、コンピュータの画面にフラッシュ式で出題される数字の問題を珠算式暗算を使って計算するもので、暗算力を到達させることのできる画期的プログラムです。

「フラッシュ暗算」は、一口ごとにパソコンの画面から数字が消えていきます。ですから分割計算ができないのです。全てのそろばん塾がこの計算方法を取り入れてくれたら、将来の珠算はきつと明るいものになる。これを信じて今までがんばってきました。

「フラッシュ暗算」は、あくまでも珠算式暗算を上達させるための教材で

す。それには出題する問題が重要であり、この問題こそが「フラッシュ暗算」の命とも言える重要な部分なのです。現在出題している問題は、生徒に出題するなどして10年間のテスト試行を繰り返し完成したものです。また、練習の目標や成果を上げるために、日本初の「フラッシュ暗算検定試験」(日本フラッシュ暗算検定協会主催)も実施されることになりました。

2000年に初めて珠算全国大会「クリスマスカップ」の正式競技種目として「フラッシュ暗算」が採用され、これにより一気に「フラッシュ暗算」が全国に知れ渡るようになりました。多くのマスコミにも取り上げられるようになり、ゴールデンタイムの番組主催で「フラッシュ暗算全国大会」も行われました。

現在では、各珠算連盟で「フラッシュ暗算検定試験」も行われており、合格者は通算100万人を突破して

います。

ところが、それに伴って困ったことも起きてきました。「フラッシュ暗算」は、ただランダムに数字が出てきてそれを計算するゲーム的なものであるという間違った認識が広まり、ただランダムに数字が出題されるソフトが乱立してしまいました。初心者がこのようなソフトで練習をすると逆効果で、自信をなくして上達を妨げることになります。ですから、公式のソフトは、初心者にもできるように、イメージのしやすい問題から少しずつ難易度が上がっていくように出題していきます。初心者の子どもたちに正しい暗算力を身につけさせるための練習ソフトは、正しい目的で作られている公式ソフトでの練習をおすすめします。

※日本フラッシュ暗算協会は、日本国内のすべての検定試験と練習ソフトの制作、公式ソフトの紹介を行っている。また、フラッシュ暗算検定試験は、日本フラッシュ暗算検定協会・(社)全国珠算教育連盟・日本珠算連盟の三団体でのみ行われている。



任天堂のDSソフト「みんなでフラッシュ暗算DS」。初心者向けの「そろばんをゼロから学ぶ」ソフトをはじめ、そろばんに関する15種類のソフトが入っている。

フラッシュ暗算のインパクト

「フラッシュ暗算」は、フラッシュ方式に出題される数字を足していく単純な計算です。しかし、その単純な計算が一般の方に理解しやすく、多くの方にもスコミに取り上げられ、多くの方にインパクトを与えました。「どのような練習をすればこの計算ができるのか？」との多くの問い合わせがテレビ局に殺到し、以降の放送では、必ず「フラッシュ暗算」と「そろばん」は一緒に紹介されるようになりました。「フラッシュ暗算」によって、「そろばん」の良さが再認識される結果となったわけです。

また、2010年よりフラッシュ暗算の記録がワールドレコーズのギネス記録に認定されるようになりました。現在の記録は、3ケタ15口(3ケタの数字を15個足し算する) 1・77秒です。この記録は2013年度版からギネス

しいこと」です。是非、ギネス記録に挑戦してみてください。

宮本先生が考える
そろばん教室の魅力とは？

私の教室の場合は、常に幼稚園児から一般までの生徒が在籍しています。

が発行する本で紹介されることになりました。フラッシュ暗算が普及しはじめたから、間違いなく全国的に子どもたちの暗算力が向上してきたと実感しています。任天堂のニンテンドーDSのソフトでも採用され、いつでもどこでも暗算の練習ができるようになったのも普及の大きな要因です。現在、私はコンピュータの知識がなくとも誰もがより簡単に「フラッシュ暗算」が導入・指導できるような方式を考えています。日本中の珠算塾が「フラッシュ暗算」を導入できるように願っています。

フラッシュ暗算の

「おもしろさ」と「すばさ」とは？

「フラッシュ暗算」の「おもしろさ」は、そろばんを習わなければはじまりません。2ケタや3ケタの足し算が自

幼稚園児で入ってきた子どもたちが社会に出るまで在籍しているということなのです。このようになると、そろばんは、子どもたちの人間力を育てるための教具となり、その責任はとても大きなものとなります。長く続けることで、必然的に上手になり、毎年、検定試験の十段の合格者が出ます。このような子どもたちの関わりができる習いごとが他にあるでしょうか？

そろばん塾は他にあるでしょうか？

縦社会です。年上が年下の面倒を見る。このような環境もそろばんならではです。私は今までに、親が亡くなったりした生徒の里親になり、3人の子どもを社会に送り出しました。そんな深い絆ができる習いごとがそろばん塾なのです。たくさん子どもたちが社会に出るまで見届けることができるなんて、本当に幸せな仕事だと思っております。

私は、そろばんの魅力を聞かれるのがあまり好きではありません。そろばんが大好きだからです。好きなことに



フラッシュ暗算の公式ソフトには「そろばん数字」フォントが使われており、「352」の3や5のカーブの形、「2」の数字の下の部分の最後の縦ね上がり方などで似たような別のソフトと見分けられる。写真は最初に開発された「あんさん力開発システム」(2008年・朝日プリント社)のもの(公式ソフトはすべてこの数字を使っている)。

由自在にスラスラと計算できる自分を想像してみてください。これって楽しいことですよ。できなかったことができるようになる。どんなことでも同じだと思いますが、それは、とても「おもしろく」「楽しいこと」です。

経験者は、できるようになったことを、どこまで伸ばすことができるかに挑戦する。それが「おもしろく」「楽しい理由はいらない。理由がないのが好きな証拠、これが私の持論です。だから子どもたちにも、好きなことに理由を考える必要はないと常日頃から言っています。

そろばんを習って計算がうまくなるのは当たり前ですが、上級者になるほど、精神力・忍耐力・人間力は並外れた力となり、尊敬できるような人間に育っていきます。時間の使い方方もムダがなく、仕事の処理能力にも目を見張るものがあります。子どもたちの人生にもたらすもので一番大きなことは、自分自身がやり通してきた自信が大きな宝物になるということです。子どもたちには何でもいい、ひとつでいいから、10年以上はやり遂げたものを持つ人になるように、と日頃から言っております。

ひとりでも多く、そのひとつに「そろばん」を選択してくれるよう 毎日の指導にあたっています。